

目次

- 1 高次脳機能障がい者に対する作業療法士の関わり

1. 高次脳機能障がい者に対する作業療法士の関わり

作業療法とは？

何らかの障がいのために、日常生活活動・仕事・趣味活動・社会参加など、それまで馴染んでいた日々の作業を実現出来なくなった人に対して、再び作業活動を日常生活で実現出来るよう支援や指導を行います。

高次脳機能障がい者に対する作業療法の流れ

<評価>

まずは、日常生活の中でどんな事が出来て、出来ないのかを観察する事が重要です。また、注意力や記憶力、遂行能力などについてテストバッテリーを用いて評価します。※家族から病前の性格や生活を聴取し、病気によるものか見極める事も大切です。

<訓練>

評価から得られた情報をもとに問題点を本人と共有します。その後、機能訓練も行いながら代償手段を使った反復訓練を行います。

*例) 記憶障がいの患者 A さんの例

「さっき言った事、言われた事を忘れる」

<評価>

- ① 脳機能（記憶力や注意力など）を検査します。
- ② 日常生活活動（食事・着替え・排泄・入浴など）、社会生活に関連した行為（時間管理、金銭管理など）を観察し、評価します。

<訓練>

- ① 記憶力や注意力の機能訓練を行う
- ② 記憶を代償する手段が定着できるよう反復し練習します
 - ・ メモ帳や携帯電話のメモ・アラーム機能を使用
→口頭で伝えられた事を書き込んで常に確認できるようにする
- ③ 思い出しやすい環境調整をする
 - ・ 頻繁に使用する物は特定の置き場所に置いたり、印をつける
 - ・ 日にちや時間、服薬などを書いたカレンダー表を目につきやすい場所に貼り、定着するまで声かけしながら一緒に確認する

* ①～③を何度も繰り返し練習する事で本人の記憶障がいに対する意識づけが可能になり、正確な作業の定着が期待できます。



10月の第2月曜日は
体育の日です。適度に
身体を動かす習慣を
作りたいですね。